

81 非小細胞肺癌に対する Cisplatin を中心とした多剤併用療法の検討

兵庫医科大学第3内科

○岩橋徳明，藤岡 洋，田村伸介，中野孝司，前田重一郎，波田寿一，東野一彌

【目的】非小細胞肺癌に対し Cisplatin, Adriamycin, Vindesine による併用化学療法を行った症例の治療効果、副作用、予後につき検討した。

【対象及び方法】評価可能な PS grade 3以下の非小細胞肺癌25例で、その内訳はAd. 11例、Sq. 6例、La. 8例であり、男性15例、女性10例で平均 59.5才、臨床病期はⅢ期10例、Ⅳ期15例であった。

【成績】①治療効果—CR 1例、PR 8例、NC 13例（内MR 4例）、PD 3例で奏効率は36.0%であった。②副作用—悪心嘔吐 92.0% 著明な脱毛 88.0%、白血球 $3000/\text{mm}^3$ 以下の減少 96.6%（内 $1000/\text{mm}^3$ 以下 48.0%）、血小板 $7 \times 10^4/\text{mm}^3$ 以下の減少 36.0%（内 $3 \times 10^4/\text{mm}^3$ 以下 4.0%）、腎機能障害（Cr 1.5mg/dl以上）20.0%で、骨髄抑制が非常に強いが全例早期回復をみた。③生存期間—Kaplan-Meyer 法による生存期間の検討では、中間生存期間（MST）は50週であった。CR+PR群とNC+PD群を比較してみると、MSTはそれぞれ68週、23週で、Generalized Wilcoxon testにて5%以下の危険率で有意差を認めた。

【結語】我々の施行した療法は、奏効率 36.0%、MST 50週であり非小細胞肺癌に対して有効であると思われた。

83 肺非小細胞癌に対するシスプラチンを中心とした多剤併用化学療法—奏効例の検討—

北海道大学医学部 第一内科¹，国立札幌病院呼吸器科²
宮本 宏¹，荒谷義和¹，磯部 宏¹，清水 透¹，原田真雄¹，
石黒昭彦¹，羽田 均¹，川上義和¹，中林武仁²，安田真也²

肺非小細胞癌に対し昭和58年から62年までに CDDP を中心とした多剤併用療法が行なわれ奏効を示した27例（CR3，PR24）について検討した。58-60年：CDDP（ $40\text{mg}/\text{m}^2$ ）+MMC（ $6\text{mg}/\text{m}^2$ ），CDDP+MMC+PEP（ $5\text{mg}/\text{m}^2$ ），CDDP+MMC+VCR（ $1\text{mg}/\text{m}^2$ ），61-62年：CDDP（ $80\text{mg}/\text{m}^2$ ）+VDS（ $3\text{mg}/\text{m}^2$ ），CDDP+IFOS（ $2\text{mg}/\text{m}^2$ ），男22例，女5例，扁平上皮癌15例，腺癌10例，大細胞癌2例。

全奏効期間が1年未満の症例の全奏効期間は平均21週，PR奏効期間は16週で，平均生存期間は27週であった。全奏効期間が1年以上の症例は8例（30%）であり，平均生存期間は77週であった。50%腫瘍縮小までに要した期間はCDDP+MMCでは4.7週，CDDP+VDSでは3.0週であった。治療前の原発腫瘍径はPR例では平均5.5cm，CR例では3.2cmであった。PS 0-1の患者は18例（67%）であり，CR例はすべてPS 1であった。治療前に明らかな腫瘍の増大を認めた症例に，奏効のよい症例があった。以上より，CDDPを用いた併用化学療法は原発腫瘍径が小さく，全身状態の良い患者ほど奏効性が大きい。しかし，奏効期間が短いので再燃を防止する工夫が必要である。

82 進行肺非小細胞癌に対する CDDP, ADM, VDS 併用 (CAV) 療法

浜松医科大学 第2内科¹，静岡市立静岡病院²
浜松労災病院³，国療天竜病院⁴，富士宮市立病院⁵
榛原総合病院⁶，志太総合病院⁷，蒲原総合病院⁸
磐田市立総合病院⁹

秋山仁一郎¹，千田金吾¹，佐藤篤彦¹，本田和徳²
川勝純夫³，岸本肇⁴，渡辺孝芳⁵，岡野博一⁶
谷口正実⁷，渡辺春充⁸，松原環⁹

目的：進行肺非小細胞癌32例に対して，CDDP, ADM, VDS の併用(CAV)療法を施行し，その臨床的效果および副作用について検討した。

対象：対象は腺癌19例，扁平上皮癌11例，大細胞癌2例で，臨床病期別ではⅢ期14例，Ⅳ期18例，PS 0+1 19例，PS 2 9例，PS 3 4例であった。

成績：CAV療法の全奏効率は31%（10例）で，組織型別では腺癌21%，扁平上皮癌45%であった。全症例における中間生存期間は12.5ヶ月で，奏効例10例のうち9例は追跡期間6-16ヶ月で生存中である。中間生存期間は，奏効例，Ⅲ期，およびPS 0+1のものが長い傾向を示した。主たる副作用は血液毒性であり， $2000/\text{mm}^3$ 以下の白血球低下は全例の70%， $10\text{万}/\text{mm}^3$ 以下の血小板低下は25%に認められたが，血液検査データのグラフ化により，迅速な対応が可能であった。

84 進行肺腺癌に対する Cyclophosphamide, Adriamycin, Cisplatin, Methotrexate, Nimustine 併用療法 (EACAM) の検討

安城更生病院 内科・化学療法科
○茂木仁志，稲垣由布子，小笠原智彦，星野 章

（目的）Cyclophosphamide(EX), Adriamycin(ADR), Cisplatin(CDDP), Methotrexate(MTX), Nimustine(ACNU)の5剤併用療法を行い，その有用性、副作用について検討した。

（対象）1983年以後入院の手術不能肺腺癌38例で，男19例，女19例，年齢35~82才（平均58.1才），PS 0~1 18例，2~3 20例，臨床病期 Ⅱ期 1例，Ⅲa期 4例，Ⅲb期 9例，Ⅳ期 24例であった。

（方法）EX $333\text{mg}/\text{m}^2$ day1, ADR $27\text{mg}/\text{m}^2$ day1, CDDP $25\text{mg}/\text{body}$ day1~5, MTX $27\text{mg}/\text{m}^2$ day3~5, ACNU $33\text{mg}/\text{m}^2$ day5 を1ケルとし，原則として4週毎に繰り返した。なお，ACNUは61年8月より regimen から外した。

（結果）PR 16例，MR 6例，NC 13例，PD 3例で，奏効率 42.1%であり，全症例の50%生存期間は59週（PR 82週，MR+NC+PD 30週）であった。副作用は，白血球減少（ $2000/\text{mm}^3$ 以下）14例，（ $1000/\text{mm}^3$ 以下）3例，血小板減少（ $10\text{万}/\text{mm}^3$ 以下）10例，（ $5\text{万}/\text{mm}^3$ 以下）4例であった。脱毛、消化器症状はほぼ全例に認められ，口内炎は10例に，一過性の腎障害、肝障害は各2例に認められた。

（結論）本療法は進行肺腺癌に対し有用な治療法であり，副作用に対しても充分に対処しうると思われた。